

第202回

ハイキング部だより

令和2年(2020年)11月1日(日)～ 甘南備山と一休寺の紅葉



コース:JR京田辺駅～棚倉孫神社(たなくらひこじんじゃ)～酬恩庵一休寺～薪(たきぎ)神社～甘南備山管理道路～芝生広場(休憩)～サクラの森～竜王の森(休憩)～甘南備山展望台～神南備神社(昼食)～甘南備山(かんなびやま)標高221m～JR大住駅(約8キロ)

参加者 22名

11月1日(日)晴、第202回ハイキング実施。参加者は、石橋さんのお友達2名を合わせて22名。10時JR京田辺駅をスタート、先ず棚倉孫神社(たなくらひこじんじゃ)に寄りました。棚倉とは渡来人がもたらした養蚕棚小屋から転じたと言われています。とうからし、キンカン、豆類などを使用して瑞饋神輿(ずいきみこし)をつくり、10月の体育の日に氏子区域を巡行するという、その珍しい神輿が境内にありました。次に一休寺に寄りました。一休禅師がここで後半生を送り81歳で京都大徳寺住職となった時もここから通われました。寺院の中には入らず薪神社(たきぎじんじゃ)、「能楽発祥の碑」と刻まれた石碑がありました)の前を通り甘南備山に向かいました。

登山口からすぐのところの芝生広場で休憩、ここにはバイオマストイレがありました。バイオマストイレは「水を使わない」「匂いがほとんどない」新しいトイレです。おかくずと排泄物に含まれる水分だけで微生物の作用により有機物の分解を行います。30分ほど歩いて頂上に到着、展望台からは京田辺の街、遠くに愛宕山、比叡山そして京都市街を、少し霞んではいましたが望むことができました。目当てだった紅葉には少し早かったようです。神奈備神社のところで昼食、益田市歌を歌い記念写真を撮って下山開始、元の道を歩き薪神社のところの分岐点で近鉄新田辺駅に向かう組とJR大住駅に向かう組とに分かれて帰途に着きました。



神南備神社にて





第202回ハイキングは下記の計画で実施しました

～ 甘南備山と一休寺の紅葉 ～

日 時： 令和2年11月1日(日)

10時 学研都市線「京田辺駅」集合
(近鉄京都線「新田辺駅」接続)

コース:JR京田辺駅～棚倉孫神社(たなくらひこじんじゃ)～一休寺～
甘南備山(かんなびやま)標高221m～JR大住駅(約8キロ)

一休寺の元の名は妙法寺ですが、元弘の戦火に会い復興もならずいたものを一休禅師が1456年堂宇を再興し、師恩に報いる意味で「酬恩庵」と命名しました。一休禅師は、ここで後半生を送り81歳で京都大徳寺住職となった時もここから通われました。一休禅師にちなんで一休寺の通称で知られるようになりました。甘南備山(標高221m)は、古来より「神の依りつく山」として信仰の対象にされていました。山頂に神南備神社があります。

10時JR京田辺駅をスタート。棚倉孫神社(たなくらひこじんじゃ)、一休寺と歩き甘南備山に登るコースです。甘南備山(かんなびやま)は標高221mの低山です。山を巻くようにゆるやかな上りになっていますので、ちいともいたしいこたありません。頂上の展望台からは愛宕山、比叡山、京都市街が一望でき眺望抜群です。なお、今回は一休寺の庭園には入りません。帰りはJR大住駅に向かいます。皆さんぜひ参加してください。



棚倉孫神社



酬恩庵 一休寺



一休さん



神南備神社



甘南備山



甘南備山 展望台